

C分科会：中・高校生の継続活動について

日本スポーツ少年団においても「中・高校生の少年団継続活動」については重要課題とされている。少年団の活動を活性化することで継続性をいかに導くかに可能性を見出しながら、その問題点や具体的な対応策について報告された。

今回、3つの具体的な提案を基に意見交換がなされた。1つはスポーツ少年団創立以来、「中・高校生の継続活動」が問題となっていることは、果たして継続活動が可能なのか、スポーツ少年団のあり方を見直す必要があるのではないかと、根本的・構造的な改革が必要ではないかと、という重要な意見があった。2つ目は地域団なら活動の場（環境）の確保、指導者間の連携が必要で、学校団なら学校側の校長をはじめ教育委員会、部活動の顧問に対して共通理解を得られるような働きかけが必要である。これは、我々スポーツ少年団の方から働きかけていくことが必要である。3つ目は個人競技(剣道)では、個人対個人という特性があり、いろいろと判りやすいなか指導者と団員との信頼関係を構築しつつ学校とも協力して相互の対応策をとっていくこと。最後に総合型地域スポーツクラブでは、学校だけでなく地域の他団体、体育協会、地域住民にまで青少年を中心に据えてスポーツ少年団の方から働きかけていく必要がある。

スポーツ少年団の理念をいろいろな関係組織・団体に理解してもらうとともに我々関係者も、もう一度スポーツ少年団の理念に立ちかえり、考えてみる必要がある。そしてスポーツ少年団が主体となってアクティブに周りに働きかけていくことで何らかのアクションが起こせないか、社会が動いていかないだろうか、子どものスポーツ環境（継続活動など）が整備されていないのではとまとめた。